

# くりの図書館に行こう！



湧水町教育委員会・くりの図書館主催

## 第6回 椋鳩十作品 読書感想文・感想画コンクール

### 最優秀賞



### 『きえたキツネ』

上場小学校5年  
前迫 愛佳さん



#### 感想画の説明文

母ギツネが草むらに隠れている場面を書きました。工夫したところは、キツネが草むらにかくれているので、草でキツネを隠したところです。あと、草の色を少しずつ変えたところです。むずかしかったところは、目です。なかなか目の形が決まりませんでした。でも、何とかかけたのでよかったです。

### 優秀賞

#### 『月の輪グマ』



轟小学校6年  
東 大地さん

評：白く流れ落ちるのは滝でしょうか？母グマが小熊を助けようと吠えているのですね。その叫びが聞こえてくるようです。

### 感想画の部

#### 『金色のあしあと』



上場小学校5年  
鈴木 環奈さん

評：春の訪れにうれしさでいっぱいので二匹のキツネが草原を飛び跳ねています。タンポポも喜び、草原の緑も輝いています。

#### 『栗野だけの主』



栗野小学校4年  
松村 眺希さん

評：子どもたちを守るために犬たちに立ち向かっていきますね。栗野岳の主と言われるだけあって、そのたくましさ伝わってきます。色の重ね塗りも上手にできています。

### 優秀賞

### 感想文の部

幸田小学校6年 山崎 心愛さん  
「大切な子どもを守るため」

吉松小学校5年 丸濱 太陽さん  
「動物へのやさしさ」

幸田小学校4年 川島 結香さん  
「マヤの一生を読んで」

湧水町が舞台となった「大造じいさんとガン」「栗野岳の主」など、様々な動物文学を生み出した児童文学の巨匠・椋鳩十氏の功績を称え、第6回椋鳩十作品読書感想文・感想画コンクールを実施しました。

町内各小学校から多数の感想文・感想画が寄せられ、審査を行った結果、8名の児童が受賞されました。受賞者には賞状と図書カードを贈呈しました。ご応募ありがとうございました。

このコンクールを通じて、郷土への愛着が深められ、心豊かで、たくましい子どもたちが育ってくださることを願っています。

# くりの図書館長賞(最優秀賞)を受賞された 田島 樹莉さんの作品を掲載します。

コンクール受賞者の作品は、令和2年度「文集ゆうすい」に掲載されます。

また、くりの図書館内にも感想画と併せて展示してありますので、ぜひご覧ください。

## ひとりぼっちと家族

湧水町立轟小学校 四年 田島 樹莉

わたしは、「ひとりぼっち」という言葉が気になつて本を手にとって読み始めました。

「ひとりぼっちのつる」この題名を見た時、なんてさびしそうな本だろうと思いました。

つるの社会は、わたしたち人間といっしょで家族で行動するようです。ごはんを食べる時、ねむる時、い動する時、つねに家族がいっしょです。それなのに、一羽の子どものつるは、ひとりぼっちでした。このつるは、何をする時もひとりで、だれも助けてはくれません。わたしは、どうして、まわりの大人のつるは助けてくれないのだろうとイライラしてきました。わたしたち、人間の社会では、子どもが一人でこまっていたら、きつとまわりにいる大人が助けてくれると思います。それなのに、つるの大人は頭に血がにじむほど、ひどくつついたり、おいはらったりします。つるの社会はきびしくてざんこくなんだと悲しくなりました。

それと同時に、わたしは、このひとりぼっちのつるは、なんて強いんだらうと感心しました。わたしは、自分がひとりぼっちだったらどうなるんだらうと想像してみました。ひとりでごはんは食べられるかな自分で用意しなければなりません。まだ、わたしは一人でごはんを作ったことは一度もありません。ねむる時、わたしは、お姉ちゃんと同じ部屋でいっしょにねむるので、一人でねたことはありません。まっ暗な中で、一人でねむるのは、とてもこわそうです。そして、わたしが、一番こわいなと思ったのは、お話しする相手がないということです。わたしは、おしゃべ

りが大好きです。友達や家族に今日あったことや楽しかったこと、くやしかったこと、何でも話をします。そうすることで、心がスッキリしたり、もつと楽しい気持ちになったりします。その相手がいらないというのは、本当にこわいです。わたしが、このひとりぼっちのつるだったら、きつと生きてはいけなないと思います。

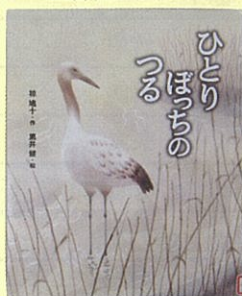
ひとりでがんばってきたつるに、やっと助けてくれる家族ができた時、わたしは、心からホッとしました。今まで、ひとりぼっちでたかたかしてきたつるは、とてもたくましいです。ひとりぼっちが、どれだけさびしくてつらいことをだれよりも知っているのです。今度は、「家族」のあたたかさをたくさん知ってほしいなと思いました。いつも、だれかがそばにいて、いっしょに行動できるよろこびを知った時、つるは、どのつるよりも強くてたくましくなれると思います。

わたしは、この本を読んで、家族の大切さや、あたたかさを感じました。でも、このひとりぼっちのつるのように、まわりにあまえてばかりいなくてたくましく生きていけるようにがんばりたいです。



えほん・椋鳩十  
「ひとりぼっちのつる」

理論社2018年



開館時間：午前10時～午後6時（毎週金曜日は午後7時まで開館）

休館日：毎週月曜日、祝日（即位の日、こどもの日、海の日、文化の日を除く）、毎月第4木曜日、  
年末年始（12/29～1/3）、特別館内整理期間

問合せ先：くりの図書館 Tel.74-1821